

子どもの安心・笑顔のために看護をしています

先輩看護師

PICU かみじき だいき
神喰 大希

私が勤務している集中治療室は、様々な疾患や既往のある新生児期から学童期の幅広い患者さんが対象であり、手術直後の管理や急変対応、一般病棟への移行準備等、様々な役割を担っています。

子どもが好きな私は、重症な患者さんが入院していることに辛いと感じる場面もあります。しかし、子どもが好きだからこそ、適切な看護実践で子どもたちの生命力を引き出し、状態が安定するようにしていきたいと考えています。そして、患者さんの状態が刻一刻と変化の中で、患者さんの一番そばにいる看護師が小さな変化を逃さず捉えることが重要だと感じています。そのため、知識や技術を身につけて観察や看護実践が行えるように、日々勉強しています。また、集中治療室と聞くと、ご家族も大きな不安を抱えると考えられます。子どもとご家族が安心して治療を受けられるよう多職種と連携し、ご家族とともに療養環境を整えたり、治療中でも成長・発達を促すことができるような支援を心掛けています。そして、そのことが子どもたちの安心や笑顔につながり、子どもたちが元気になる姿を見て役に立ててよかったと、看護師としてのやりがいを感じています。



看護部長からのメッセージ

子どもとご家族を支え、子どもたちの笑顔に支えられる看護

埼玉県立小児医療センターは、県内唯一の小児総合医療施設として、平成28年12月末にさいたま新都心に移転しました。

24時間体制でリスクの高い新生児、重篤な小児救急患者さんを受け入れているほか、先天性心疾患の治療や生体肝移植を実施しています。また、小児がん拠点病院として血液がんの患者数は全国一であり、先進医療であるCAR-T療法やゲノム治療も開始しています。

センターは「子ども憲章」を掲げ、子どもたちが一人の人間として尊重され、最善の方法を選択し安心できるような療養環境を提供しています。

私たち看護師は、子どもセルフケア看護理論を基盤とし、子どもとご家族の思いに寄り添い、子どもとご家族が持っている力を引き出すことを大切にしています。

小児看護を目指す皆さん、小児看護への情熱や思いを小児医療センターで実現しましょう。看護部は、看護師一人一人が、安心して安全、責任ある行動がとれるよう、それぞれの個性を尊重しながら、実践能力に合わせた指導を行い、思いやりのある看護師を育てています。

小児看護を極めていく道は厳しいかもしれませんが、私たちの看護が『子どもやご家族を支える』、病気を持ちながらも頑張っている『子どもたちの笑顔が私たちを支える』、そんな関係ができたら素晴らしいと思っています。

子どもたちの素敵な笑顔が皆さんを待っています。私たち看護部一同も、看護を通じて『夢』『やりがい』『よろこび』が感じられる職場となるよう、環境を整えてお待ちしております。



中田 尚子
副病院長兼看護部長